

冬の気温が高くても栽培可能で品質優良な モモ品種「さくひめ」

SATテクノロジー・ショーケース2026

■ はじめに

モモなどの落葉果樹が春に正常に開花するためには、冬にある程度の低温に一定時間以上さらされる必要があります。日本のモモ主要品種では7.2℃以下の低温が必要で、必要な時間(低温要求時間)は1,000~1,200時間程度です(表1)。今後、温暖化が進行し、冬の気温が高くなると、休眠から覚醒するために必要な低温要求時間が不足し、モモの露地栽培が困難となる地域が増加するおそれがあります。

一方、海外には亜熱帯地域でも栽培できる、低温要求時間が短いモモ品種が存在していますが、日本の主要なモモ品種に比べると果実品質が大きく劣ります。

そこで農研機構では、海外の低温要求時間が短いモモ品種を交雑親として利用し、日本の主要品種よりも低温要求時間が短く、かつ果実品質に優れた早生のモモ品種「さくひめ」を育成しました(図1)。

■ 活動内容

1. 育成経過

ブラジルから導入した低温要求時間の短い品種「Coral」と、日本国内で育成された果実品質に優れた早生品種「ちよひめ」などとの交雑を1994年に行いました。交雑で得られた個体について特性を調査して、その中から選抜した個体を用いて交雑を進めました。低温要求時間は開花期の早晩で簡易評価しました。2003年に実施した交雑から得られた第3世代の個体の中から「さくひめ」を選抜しました。

2. 「さくひめ」の特性

低温要求時間は555時間程度で、日本の主要品種の約半分です(表1)。温暖化により冬の気温が上昇しても、安定した開花が見込めます(図2)。

開花盛期は早生の主要品種の「日川白鳳」より9日程度早くなります。収穫盛期も「日川白鳳」より5日程度早くなります(表2)。

果実の大きさは「日川白鳳」と同程度です。「日川白鳳」に比べて成熟期の果皮の地色に緑色が残りがやすく、赤く着色する部分は「日川白鳳」と同等かやや少なくなります(表2)。

果肉色は白色です。果汁の糖度は12~13%前後で「日川白鳳」と同程度です。酸味はpH4.6程度と少なく、食味良好です(表2)。

早生品種で多くみられる核割れが少ないです。

3. 栽培上の注意点

開花が早いいため、晩霜害を受けるリスクが他の品種よりも高い可能性があります。

果点や裂果が「日川白鳳」よりも多く発生する年があります。果実袋をかけることで発生を抑制できます。

■ 関連情報等(特許関係、施設)

品種登録: 登録番号26635号(2018年3月9日登録)

学術論文: Chilling requirements and blooming dates of leading peach cultivars and a promising early maturing peach selection, Momo Tsukuba 127. Sawamura et al. The Horticulture Journal 86 (4): 426-436. 2017.

表1 「さくひめ」および主要品種の低温要求量の平均値
(切り枝法、2012~2015年、つくば市)

品種	低温要求時間 (CH)	チルユニット (CU)
さくひめ	555	652
日川白鳳	1173	1079
あかつき	1176	1074
川中島白桃	1208	1082

表2 育成地(農研機構・つくば研究拠点)における2013~2015年の
無袋栽培での特性

品種	開花 盛期	収穫 盛期	果実重 (g)	果皮の 地色	果皮の 着色	果肉色	糖度 (%)	酸度 (pH)
さくひめ	3/27	6/26	253	緑白	やや多	白	12.8	4.62
日川白鳳	4/5	7/1	250	緑白 ~白	多	白	12.2	4.34



図1 「さくひめ」の果実



図2 加温栽培における開花
左: さくひめ、右: 日川白鳳
2016年12月26日加温開始
2017年1月18日撮影

代表発表者 八重垣 英明(やえがき ひであき)

所 属 農研機構 果樹茶業研究部門
果樹品種育成研究領域
落葉果樹品種育成グループ

問合せ先 <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>
www@sh-naro.affrc.go.jp

■キーワード: (1) モモ
(2) 低温要求時間
(3) 温暖化

■共同研究者: 末貞佑子、澤村豊、土師岳
山根崇嘉(農研機構 果茶研)